

2025 年度 通期決算説明会
主な質疑応答

Q: メモリの価格上昇による影響を教えてください。

A: 自社製品で多くを占めるのは小容量のメモリである。26 年度に必要となる数量は確保できている。

今後想定されるメモリ価格の上昇はある程度織り込み、100 億円規模のコスト上昇を見込んでいる。販売価格への転嫁を順次行うことで利益への影響は限定的と考える。

Q: 中東情勢の不安定化に伴う業績への影響を教えてください。

A: 中東での売上影響はあるものの、全体から見れば限定的。原油価格高騰の影響は 6 月以降徐々に顕在化する想定で、通期では 90 億円程度のコスト上昇を見込んでいる。一方、米国関税については税率変更によるコスト減少を見込んでおり、原油高によるコスト上昇と一定程度オフセットされる前提で計画している。

Q: Fiery には追加減損リスクはないのか。

A: 減損損失の計上にあたっては、多面的に検討し、保守的かつ慎重に将来キャッシュフローを見積もった。

Q: Fiery の現在の事業環境を教えてください。

A: Fiery は商業印刷と産業印刷の領域がある。事業の 8 割以上を占める商業印刷は、北米を中心に高収益でシェアが高く安定的な事業基盤である。市況影響により一時的に弱含んでいるものの、競争力が大きく損なわれたわけではない。

産業印刷については中長期的な成長領域と見ている。立ち上がりが当初の想定よりやや時間を要しているが、シナジー創出の取り組みは進展している。

Q: インクジェットソリューションズの成長に向けた手ごたえを教えてください。

A: 26 年度は、中国市場については、経済回復を見込むと同時に、お客様の海外市場向け需要創出が進んでいる。また、中国以外の市場でもお客様の開拓を進めているほか、印刷以外の産業用途の需要も含めて成長を見込んでいる。

Q: インフレ傾向がある中で、一般的には低価格製品が好まれるが、エプソンのインクジェットプリンターにはどのような動きがあるか。

A: インクカートリッジモデルは、相対的に低価格ということもあって一部のお客様には好まれる傾向がある。エプソンの大容量インクタンクモデルは、TCO に優れており、インフレ環境下においても、大量に印刷されるお客様にとってより選ばれやすい製品である。